



子守歌と手鞠歌

集壹第

定價八錢

郵稅貳錢

子守歌と手鞠歌の幼童薰化の上に大なる影響あるにも拘はらず歌詞歌曲のよしわしからべられずして昔ながらのきぐるしくいやすくみだりなるものがそのまゝに謠われてあるは抑教育の缺點で決して捨置かれぬことである今其急に應じて本書が印行されたのである世の母君姉君達可憐可愛の子女の爲め願くは一本を需め給まへ

島林南強堂
金昌堂

滋賀縣大津市

發賣所

乞を記附御旨るた見を供子と人婦は方御の文注御り依に告廣此

櫻糸意匠省農務商校生徒用御袴

女學校生徒用御袴

社會の日新月歩に伴ひ衛生上及び經濟上より女子服裝改良の說盛んに起りこれが第一着手として今や都鄙到る處女生徒着袴の氣運に向ひたるは頗る喜々可きとなり然るに之に適當する袴地に乏しく爲めに或は不經濟に陥り或は優美の特性を損じ社會をして此改良に躊躇せしむる傾あるは頗る遺憾の至りなり弊店此點に苦心し某美術大家の意匠に基き多年の經驗に徴し華美贅澤に流れざるやう考案を凝し染織の確實を以て機業界に信用ある愛知物産組に依し百手の瓦斯系にて海老皮色に櫻模様を織出したるものなれば其優美高尚なるは勿論染色は數十回の試験を経しとて赫日に晒すも雨霖に濡るゝも毫々變色することこれなく且つ價格極めて低廉なれば平素實用上尤も適當なるにより大に社會の喝采を博し已に師範學校女子部高等女學校高等尋常小學校女子部幼稚園等より陸續御注文の榮を給はり加ふるに今般農商務省より意匠登録特許相成りしを以て更に一層織元を擴張し精良なる原料を撰び御高需に應じ申すべく候條多少に拘らず御注文被下度定價表相添及廣告候敬白

櫻糸仕立上 金貳圓七拾貳錢

一 布地見本御入用の御方は郵券貳錢を送られだし
一 御注文砌は御通學の學校名並着物の着丈御年齢等御通知被下候は、好都合に候
一小包郵便稅は一具二百目以内の割合を以て袴代金と共に前金御郵送を請ふ着金
一次第直に郵送す尤も代金引換小包郵便に托す節は別に引換料として金拾錢を要す
一 特約販賣御望の方は郵券三錢封入御照會あれば規約書御送り申すべしと
一 爲替振込局は名古屋郵便電信局受取人は弊店宛のこと

女學生袴地發賣所

名古屋市玉屋町
電話特三三八番

東京日本橋區
鰯殼町四番地 永樂屋

永東吳服店
大海鍵次郎

東京市特約販賣店

國民教育學會編輯

日本之小學教師

第參卷第二十七號
三月十五日發行

一冊金拾錢 郵稅金一錢

本誌は大日本帝國小學教師の一大共同機關なり初等教育界の一大燈明臺なり苟も職に小學校に在るもの其男たると女たるとを問はず必ず坐右に備へざるべからざる好雑誌なり本誌生れて僅に三歲發行部數實に一萬以上に出づこれ本誌が眞によく小學教師の先導者となり保護者となりて其任務を盡したるによると雖も抑も又我全國十萬有餘の小學教師諸君の熱心なる反影にあらずして何ぞや

本號には論說として二十世紀の小學教員、完全なる小學校長、吾人の三大敵なる三大雄篇を始め遠藤文學士隈本福岡中學校長、小池民次、小川松岡、野口援太郎五先生の講述あり、故福澤翁、伊藤博士、及里村勝太郎、林吉一、廣瀬爲四郎、山高幾之丞四君の肖像傳記、高等師範學校附屬小學校國語科實施方法、新潟、岐阜、群馬、福岡、四師範學校附屬小學校の實地授業及數篇、其仲叢談あり人物月旦あり會友論議あり、通信確實且つ有益なる内外彙報あり、材料頗る豐富にして撰輯極めて精なるは世既に定論あり、敢て自畫自贊せず講ふ閲讀して以て之を判せられんことを

發賣所

東京市日本橋區本石町三丁目廿三番地

金

昌

堂

此處に著者を記す御旨の方御文法御依りて此書は人婦と棋子を見たるたびに記す

版二訂増

關根正直先生校閱 杉山文悟君共編

東宮侍講本居豊穎先生題詠 國學院講師逸見仲三郎先生校閱 國語研究組合編纂



全一冊 定價金四拾錢

郵稅金四錢

本書は日本歴史を修むる者殊に之が検定試験受験及斯道の獨習者の便に供せん爲めに編纂したるものにして各項に收めし事柄は左の如し

(一) 人名

(神名)^{古來歷史上に頗る人名(又は神名)を}一列舉し正確の讀書を示し其事跡を記述する事ありしかば記す其他於史上に關係ある地名

(二) 地名

(古遺物及城柵を擧げ其所在地を示し且歴史上如何なる事のありしかば記す其他於史上に關係ある地名)

(三) 政治法律

(官職、位階、俸祿、貨幣、其他の諸制度法令等を擧ぐ)

(四) 風俗

(家屋、飲食衣服及冠婚葬祭等の遊戯)

(五) 學問

(古來著名の書籍の解説、藩學、私學及當時の諸學校の起原沿革)

(六) 美術工藝

(繪畫、彫刻に關する事項、織物、染物、樂器其他廣く美術工藝に關する事項)

(七) 宗教

(神社、佛閣、宗教の諸宗派、其の餘に必要有る書なるかを知るべし乞ふ一本を備へて其何れにも屬せざるものを擧ぐ)

(八) 雜

(前七項の何れとも定め難きもの及之て本書が如何に必要有るかを知るべし乞ふ一本を備へて其真値を試みられよ)



全一冊

定價金參拾六錢(郵稅共)

本書ハ極メテ教育的

二 (文法及假字讀等ノ初步ヲ記述シ) 其例題及

練習題

ハ總テ小中學讀本、又ハ體身ノ初學ノ了解ニ

便ニシ、尙新定字音假名遣

ヲ添ヘ
タレバ
尋常

教員講習用及検定受験用

○中學校

高等女學校生徒用

○中學校國

語教授用ニ適切ナルハ勿論、師範學校入學者ノ自修用トシテ亦極メテ

適切ナリ。

東京市日本橋區本石町三丁目

發行所

帝國通信講習會

發兌 金昌堂 杉山辰之助
(電話本局九百五十八番)

大賣捌所

金昌堂

東京市本鄉區森川町一番地

乞と記附御旨るた見を供子と人婦は方御の文注御り依に告廣此

矢澤米三郎君校 帝國通信講習會編

(後付の四)

科動物圖

植物圖



第一縱幅
第二縱幅
第三縱幅
第四縱幅
第五縱幅
第六縱幅
第七縱幅
第八縱幅
第九縱幅
第十縱幅
蛇鯉鯛ノ類十葉ニテ
定價金壹圓五拾錢
說明書金拾錢
本圖ハ犬猫牛馬鷄禁止鳥鵠鶴蛙
本圖ハ梅櫻薺薹蒲公英麥豌豆松
百合胡瓜栗等ノ十葉ニテ
定價金壹圓五拾錢
說明書金拾錢
本圖ハ羊齒菌蘚藻類バクテリア地下莖外長莖及び内長莖發芽果實
及び種子植物の生作用の拾葉定價金壹圓五拾錢說明書一冊全價實

矢澤米三郎先生撰植物圖第一綴出來

本圖ハ羊齒菌蘚藻類バクテリア地下莖外長莖及び内長莖發芽果實
及び種子植物の生作用の拾葉定價金壹圓五拾錢說明書一冊全價實

明治十三年三月
市範學
中學校
高等學校
教育學會編



全册定价金六拾八錢
郵稅金六錢

本書は受験者の研究に便益を與へ可成多くの及第者を出し以て師範教育の施設を補助せんが爲め師範教育會
自ら起稿の任に當り斯學専門の各大家親しく校閲の勞を執られたるものなれば其解明の正確なるは勿論答案と
して亦能く其肯綮を得たり故に本書は啻に受験者のみならず一般斯學研究者に取りても實に懇切なる良師たる
べきを信す斯學に志あるの士速に一本を購ひ本書が坊間普通の此種の書と其趣を異にする所あるを知られよ

發行所

東京市日本橋區本石町三丁目廿三番地

金

四

堂

附 檢定試驗に關する諸規定及取扱手續明治二十二年試驗問題

ふ乞を記附御旨るた見を供子と人婦は方御の文注御り依に告廣此

同 同 全 國 發 賣 元

大改良 使盡 くろで腐敗固結等の憂なき受合

田口精爾發明製造

すらすにまけて墨色極めてよろし



特許開明墨

並金四錢と金六錢
上金拾錢と金拾五錢
同朱墨並金四錢上金拾
容器付參錢增大上下御好次第



特許硯函付

第一號金八錢第二號金拾參錢第三號金廿錢
箇中用。朱。朱肉入付長型角型各金二十五錢

大東 唐大 本東開明墨の儀爾來高等師範學校尋常師範學校附屬當市諸大公立小學校教育諸大家
傳京 物阪 石京の御批評を承り數回の大改良を施し今や全く實地上の最好結果を得特に其堅硬
馬市 町 三市にして而ひも溶け方の極めて易く使用し盡くるまで決して腐敗固結等の憂なく
町日 町 丁目 日又光澤の艶麗なる一目驚かさるものなし
二本 丁 橋 東 二本 丁 橋
目區 番地 領域



特許開明摺墨

定價 { 並金參錢と六錢
上金五錢と九錢

今般習慣上の爲めスリテ便利なる墨を製造せり此墨は從來の硯なれば勿論木。

アリキ。カラス。陶器製の硯面或は木板塗板上にても三四回すれば直に濃厚と

同 校算教諸なり。子バリ。ニシミ等少なく其上床上。石上等に抛ちて決して碎くる事なき
用盤 學故小學校等に特に妙用なり

品學 啓明イソキ

定價 { 小瓶入金參錢と金四錢
壹升金廿錢と金五拾錢

屋

賣書開明イソキは光澤艶麗なる真黒色にしてペン先のさびる憂なく走り方極めて軽
快なり特に毛筆に使用して書畫共に上等和墨に更に異なる事なき點に於て一層
高評を得たり誠に希ふ其東洋墨と西洋イソキとの兩用を兼たる佳良愉快の妙用
を御試み玉はん事を



墨板用開明墨

定價 { 大型墨板三面實用分
函入金拾錢墨のみ金
八錢其他大小種々

利見合名會社本店 昌

日光爐火等にて暖めて用ふるときは如何に多量にても忽ちに使用出來其美麗に
して愉快なる色を呈すること在來墨の比に非らず



教場用開明水差

定價 金廿五錢以上種々

此器は片手に其取手を持ちたる儘押指の作用にて一滴二滴隨意に水の出し止め
をなし得られ且つ衛生上水の腐敗を防ぎ轉覆の際水の溢るゝ事なし實に小學校
教場に一二個を用ひて唯一の品なり

明明治治治十三年
三十一年四年
四年二月二日
五月十日
六月八日
年内第三回
第一回
省便郵種第
行可認許發行
人子どもと人婦明

幸父兄諸君に愛世の教員

教育童話

第三編

相道菅

附上

正月發賣

定價金入錢

郵稅金貳錢

本書は小學校賞與品及び家庭の讀本に最も適當せり

正月三十四年

東は奥州の果より西は筑紫の極みに至るまで、一縣一郡の間天滿天神の社なし
はなし、天滿天神とは何ぞ、即ち菅丞相道眞公これなり、道眞公は延喜の朝に
仕へて治績休明、勳功顯赫たりしことは人の略ば知る所なり、ことに其人品高
く學術深く、千有餘年の後ちに至るまで、教師學童の爲めに尊敬せられ、その
像を掲げて、戸々これを祭り、家々これを祀らざるはなし、此の如きに至る所
以のものは、必ず其然る所わればなり、是を以て近來菅公を研究するもの漸く
多く、日に月に其書を見るに至れるは誠に喜ぶべき事共なり、然れども其書た
るや大方君子の覽に供するもの、みにして兒童の爲めにするもの少なし。
多稼散人つねに之を懷にし、こゝに筆を執て菅公の傳を起し、文草極めて平易
に、兒童走卒をして一讀了解し易からしめ、且つ畫工をして毎頁圖畫を挿まし
め、一讀の下、菅公の人と爲りを想起して、自から感奮興起の心を發せしむ。
ことに明治三十四年は菅公の一千年祭を行ふの事あり、公の事を研究するもの
は、是より益々多からん、この際菅公の何人なるやを人に問はれて知らずといは
ば、耻孰れかこれより大なるものあらん、速かに一本を座右に備へて公の人と
爲りを知れ。附錄には「牛の話」あり、短篇のお伽話にして、無邪氣なる所兒童の讀むに任
せて亦一興。

教育

第一編

孝川大黒の遊天黒續

鑑び編天近刊

郵定郵定郵定郵定
稅價稅價稅價稅價
金金金金金金金金
貳八貳八貳八四八
錢錢錢錢錢錢錢錢

昌金堂 行肆發書本日
町石本區橋本日
地番三十二目丁三